

2019年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修
実践編『ELNEC-J 高齢者カリキュラム看護師教育プログラム』アンケート集計結果

開催日時：2019年11月30日（土）～12月1日（日）

開催場所：東邦大学看護学部（東京都大田区）



【属性】

参加者：63名（会員32名、非会員31名）、

（女性58名、男性2名、無記入3名）

年齢：20歳代2名、30歳代13名、40歳代29名、50歳代16名、60歳代1名、無記入2名

職種：看護師59名（うち保健師2名）、無記入4名

職場：一般病床40名、療養病床6名、特別養護老人ホーム2名、

有料老人ホーム1名、訪問看護ステーション5名、その他5名、無記入4名

職位：スタッフ34名、主任12名、師長10名、部長3名、無記入4名

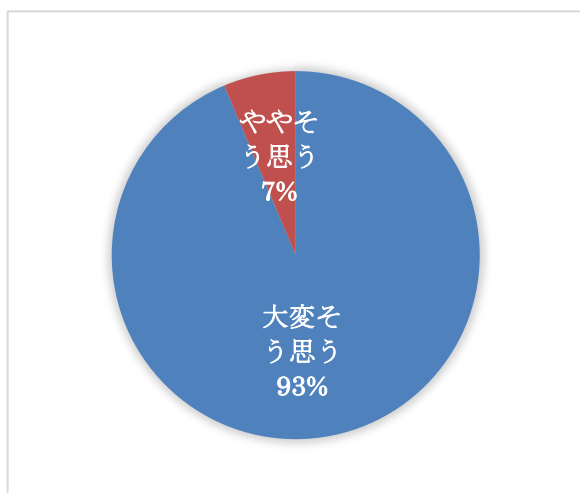
看護師経験：5～10年未満3名、10～20年未満25名、20年以上33名、無記入5名

高齢者ケア経験：3年未満1名、3～5年未満0名、5～10年未満10名、

10～20年未満29名、20年以上19名、無記入4名

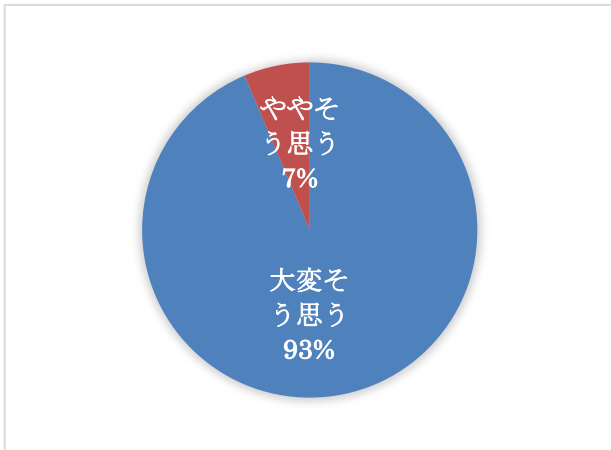
【全体について】

I. 本プログラムを受講して、高齢者の‘エンド・オブ・ライフ・ケア’の重要性が理解できましたか



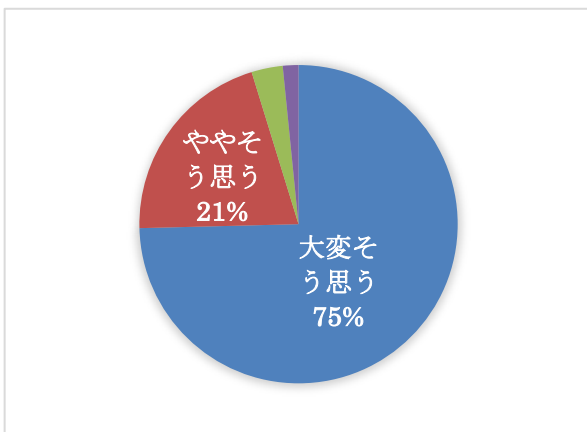
大変そう思う	59名
ややそう思う	4名
普通	0名
あまりそう思わない	0名
全くそう思わない	0名

II. 本プログラムの内容は、あなたの期待をどの程度満たしましたか



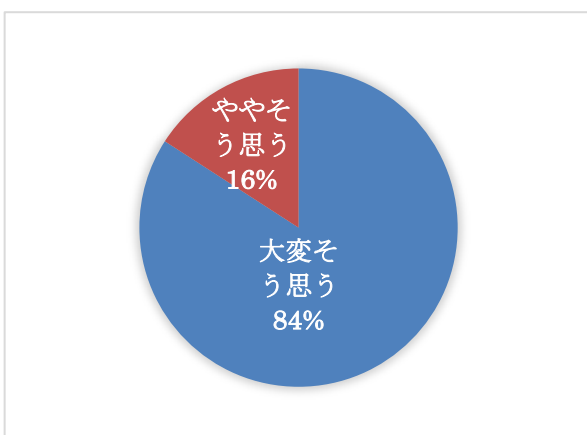
大変そう思う	59名
ややそう思う	4名
普通	0名
あまりそう思わない	0名
全くそう思わない	0名

III. 本プログラムの内容は、あなたの職場の高齢者の‘エンド・オブ・ライフ・ケア’の状況に合っていると思いますか



大変そう思う	47名
ややそう思う	13名
普通	2名
あまりそう思わない	1名
全くそう思わない	0名

IV. 本プログラムの内容を、あなたの職場で活用していきたいと思いませんか



大変そう思う	53名
ややそう思う	10名
普通	0名
あまりそう思わない	0名
全くそう思わない	0名

V. プログラム全体や配布資料についてなど、ご意見・ご感想をお聞かせください

【プログラムについて】

- ・ワークもいろいろあり、飽きさせない工夫があったと思います。
- ・どの講義もわかりやすく、日ごろの実践を思い出しながら聞くことが出来ました。ディスカッションする場も多く、意見を言語化することの難しさも感じた。
- ・運営スタッフの皆さまが分かりやすく伝えるにはということを意識して担当されていることと、プログラムの目的を理解され同じベクトルを向けて運営されていることが、モジュールのさまざまな場面からわかりました

【高齢者ケアについて】

- ・点で考えてきた高齢者の概念と医療、ケアが面につながった思いがしました。エイジズムを払拭しケアリング5つのCを心掛け、高齢者の満足度、穏やかになれるケアの実践が出来ればと思います。
- ・高齢者をケアするうえで疾患だけを見た看護では不足。症状が可逆か不可逆か見極めて最善がないか考え続けることが大切。BPSD が日々問題としてとらえられがちだが、中核症状によっていかにして本人の生活が障害されているかという本人の視点に立ったアセスメントの視点が大切。症状は私たちにはわからないから、想像する事、自分だったらと考えてケアしていきたい。
- ・家族のみでなく本人の意思決定（難しい方でも）をできる限り、また、早いうちから支援していく。ACP は早期から。倫理的問題にまず気づく視点を持つこと。看護職は擁護者としての役割があることを学んだ
- ・倫理的問題は皆、同じことを抱えていることを知り、安心したり、頑張っていこうと思えた
- ・高齢者を対象とするゆえに「もやもや」さえしない可能性があるということ、自分自身の中にあるエイジズムに気づくことが倫理的感受性を高めることになっていることを、院内教育でも伝えていきたい。自分でもいましめとしたい。
- ・コミュニケーションでは、まず相手に興味を持ち、背景、生活してきた中でのをすべてを大切にしていることなどを考えながら、失われた能力でなく残っている能力を大切にしながら行うなど勉強になった。
- ・倫理、文化の講義、普段のモヤモヤを大切にしたいと思った。文化については今まであまり意識してなかったと気づきました。
- ・ロールプレイは自分自身のコミュニケーションの傾向を知るために良かった。日ごろ、コミュニケーションをじっくりと見てもらう機会がないので、良い学びになった。
- ・一人では多角的に見ると言ってもどうしても偏ってしまうので、みんなで意見を出し合うことで、人を、まるみを帯びた立体像として捉えることができると思いました。
- ・老化による喪失がマイナスイメージととらえていたが、生活変化で生きがい・幸福感を得られる点を知ることが出来た。
- ・亡くなる前の生理的变化を理解することで、家族が不安に思うことについて、きちんと説明できるように援助できると思いました。
- ・チーム協働している人たちにも目を向けて臨死の際の不安へ対応することやケアの意味づけをすることは考えてもいなかった。皆不安を抱えていることを知った。
- ・美しい死を迎えることが、生きている日々のケアが重要であること。日々のケアは重要であると思った。